

宇治茶の米国輸出向け、てん茶防除体系モデルを作成 (農林センター)

宇治茶を海外に輸出するには、相手国の農薬残留基準をクリアする必要があります。今回新たに米国の農薬残留基準をクリアできるてん茶（抹茶の原料）の防除体系モデルを作成しました。既存のEU向け防除モデルと合わせて輸出拡大の取組を推進します。

背景	<ul style="list-style-type: none"> 抹茶ブームを背景に宇治茶の海外輸出の動きが大 宇治茶は他産地にはない遮光栽培で、病害虫の発生状況が異なるため、独自の防除体系の確立が必要で、生産者・茶業者から要望大
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 海外輸出においては、海外の農薬残留基準値（MRL）をクリアする必要 遮光栽培により生産されるてん茶における、残留性の低い農薬の選択と組み合わせによる米国向け防除体系モデルの確立 特に府南部に多い自然仕立て茶園（茶樹本来の自然な樹姿を生かした茶園）で発生する害虫に対応した防除方法の開発

米国輸出向けてん茶栽培における防除体系を確立

候補農薬の選定（153剤→13剤）

候補農薬を散布し残留程度を確認

現地実証茶園の病害虫防除効果を確認

防除体系モデルを策定（13剤）

チャノホソガ
ハチハチ乳剤
(MRL 日本<米国)

一番茶
摘採

炭疽病
フロンサイドSC
(MRL 日本<米国)

二番茶
摘採

カンザワハダニ
ダニゲッターフロアブル
(MRL 日本<米国)

クワシロカイガラムシ
ブルートMC
(MRL 日本=米国)

秋番茶
摘採

アザミウマ
スピノエースフロアブル
(残留性極めて低い)

ヨコバイ



傾斜地茶園におけるフェロモン剤 (商品名 ハマキコンN) の効果



本研究により登録拡大した自然仕立て茶園発生害虫に対する農薬の効果

研究成果

- MRL超過リスクの低い、米国輸出向けの防除体系モデルを作成
- 傾斜地でも使える、残留の心配のないフェロモン剤の有効性を確認
- 自然仕立て茶園で特異的に発生する害虫に対して使用できる農薬の登録適用を拡大

■現状
年間農薬代(10a当たり) 47,520円
単価(H30全農茶市場初茶てん茶平均)
3,748円/kg × 一番茶荒茶128kg/10a⇒479千円/10a

■技術導入後 品質の低下が見られず、価格への影響はない
年間農薬代(10a当たり) 48,919円(+フェロモン剤 11,070円)
単価2割増(米国輸出実績)
4,497円/kg × 一番茶荒茶128kg/10a⇒479千円/10a⇒575千円/10a

今後の展開

普及センターと協力し、米国向け輸出産地の形成を進めます。宇治茶の輸出が増加し、海外で高品質な玉露・抹茶の消費が促進されることで、宇治茶の市場価格が高まり、農家所得の向上が期待できます。